いわて未来づくり機構 第２回ラウンドテーブル

日時：平成 20 年７月 30 日（水）13:30～15:30
場所：株式会社岩手銀行　９階大会議室

次　　　第

１　開会

２　報告事項

各作業部会の進行状況等ついて

３　ディスカッション

各作業部会における「現時点の論点及び課題」に対する意見等

４　その他

５　閉会

出席者名簿

氏　　　名	
永　野　勝　美	((社)岩手経済同友会代表幹事、岩手県商工会議所連合会会長)
平　山　健　一	(独立行政法人科学技術振興機構 JST イノベーションサテライト岩手館長)
達　増　拓　也	(岩手県知事)
甘　竹　秀　雄	(大船渡商工会議所会頭、(株)アマタケ取締役会長)
谷　口　　　誠	(公立大学法人岩手県立大学長)
玉　山　　　哲	(盛岡商工会議所副会頭、(株)東山堂代表取締役社長)
元　持　勝　利	((社)岩手経済同友会副代表幹事、岩手トヨペット(株)代表取締役社長)

第２回ラウンドテーブル議事録メモ

日時：平成 20 年７月 30 日（水）
場所：岩手銀行９階大会議室

＜作業部会報告について＞
齋藤副学長
・ＷＧへの産業界からの参加が足りないので支援をお願いしたい。
・５つのＷＧのうち４つまでが大学の関係者となっている点は好ましくないのではないか。
・作業部会メンバーから、ラウンドテーブルメンバーとの個々の意見交換の場が欲しいという意見があったことをお伝えしておく。

＜ディスカッション＞
平山館長
・大学の関係者が座長をしているという点は確かに気になる。
・大学の先生は、原理原則論や現状の分析というのは得意であるが、スピード感を持ってとか、具体性を持ってといった点が苦手である。
・したがって、新しい発想で新しいしくみを生み出していくのが難しいのではないか。
・もっと現場に近い人をメンバーとする工夫が必要。

（第１作業部会「一次産品の高機能化」）
永野会長
・農業振興策に限らず、林業振興策にも取り組みたい。林業振興は CO2 の削減につながる。
・第１作業部会に限らず、第４作業部会までは自分が関与できる余地があると考えており、要請があれば自分の考えを提示したい。
・産の参加が足りないとのことなので、要望があれば後押ししたい。
・第１作業部会で補足　意欲的な生産者の固まりについては、日経新聞でも特集されているように、アプローチのしかたは様々だが、既にあちこちにできている。岩手でも成功事例があるので、それらをもとにもっともっと広めていくことが必要。
・岩手の人はものは作るが、売るのは下手である。四国銀行、大分銀行、山梨中央銀行と岩手銀行で食の祭典という商談会を行うこととしている。
・農業生産法人に対する農業関係者以外の出資制限について、経団連との意見交換で、現在の 10%を 50%を超える段階にもっていかないと日本の農業は壊滅的な打撃を受けると忠告してきた。
・ＷＴＯの問題は、農業の競争力の問題である。産業資本が参入することで農業が強化され、対抗できるようになる。
・盛岡商工会議所では地産地消を進めているところであるが、これを進めることで食材の

ＰＲにつながる。
・岩手の農業の将来は、多角的に農業を捉えていくことで農業の所得が上がり、新規参入者が増加する。

甘竹会長
・商談会は今までもあったが、岩手からの参加者は事前の勉強が足りないと感じている。勉強しないでいくので商売に結びつかない。
・岩手銀行には事前の勉強会を行うなど目標を持って望むように指導願いたい。

永野会長
・事前のマッチングなどはやっているが、さらにしっかりやっていく。

甘竹会長
・（永野会長の資料ではブロイラーは付加価値が低いとしているが）岩手のブロイラーは付加価値が高い。

谷口学長
・どうすればよいか現実性が見えない。
・骨太の意見として、①ＷＴＯでは政府の農業政策がしっかりしていないと日本は追い込まれていくと思う。岩手だけでは何ともしがたい。
・岩手としては多角的農業を目指すべき。
・米だけに頼ると世界的に孤立する。
・岩手には南部小麦というすばらしいものがある。もっと小麦を作るべきだと思う。
・自給率は 120%、130%を目指す。
・短角牛も立派なブランドとなった。
・②若い世代が農業をやりたいと思うような地盤を作ることを考える。
・大規模化は岩手が独自に進めるぐらいでないと、政府の方針は待ってもなかなか進まない。

永野会長
・甘竹会長の農場で働いている人は高学歴。
・固まりを作れば人材が集まってくる。

平山館長
・農業は大切である。ものづくりの人口を養って支えているのは農業である。
・今までの生産のしくみ、流通のしくみを反省してみる。

・川中、川下に重点をおいたところで検討してはどうか。
・政府に頼らない自らで進めるように。

玉山社長
・農業は後継者問題のハードルが高い。
・中小企業は疲弊しており、働く環境が劣化している。
・後継者の問題は産業単独で考えてもダメ。
・働く環境と後継者のマッチングが必要。
・首都圏の大企業と比べても新卒初任給などでは太刀打ちできない。
・そうした中で岩手県としてどのような環境が提供できるかを中長期的に見直していくべき。
・山形のサクランボや宮崎のマンゴーは立派なブランド品だが、地元の人は高いものは買わない。
・農業に対してすべて高付加価値化を求めるとは限らない。
・普段のものは普段のものとして買うことができるしくみを作ってあげることも必要。

永野会長
・骨子を作ったが６点ほど不足分が出てきたので、ＷＧで議論していただきたい。
・農商工ファンドなど実践できる環境は準備した。
・ＷＧの議論をもとに、実践モデルをひとつかふたつ作っていただきたい。

（第２作業部会「産業基盤の集積と強化」）
達増知事
・製造業を中心とする産業は、雇用力を持つので大事。
・ＩＴバブルや公共事業のおかげで岩手からの人口流出はしばらくは歯止めがかかったが、アイワ、アルプス、公共事業の減などにより、人口流出が始まり、数万人単位の若者人口が流出してしまった。
・地場産業を盛り立てて、岩手の企業が他に進出できるぐらいになればよい。
・世界に通用するものづくり産業に、地元企業が近づくためにはどうすればよいかを誘致企業から学ぶ。
・世界レベルの部品を作るためにはどうすればよいか。
・誘致企業以外で、ブレークスルーするような分野が他にないか。

谷口学長
・県民所得を上げるには企業の誘致が不可欠である。
・県立大学では来年４月からイノベーションセンターをオープンする。

・大学院生が産学官連携を経験することで、地元に残る人が増えることが期待できる。
・イノベーションセンターができ、ベンチャーが起こると、里帰りの機会が増えてくる。
・世界の流れの中で、自動車部品産業がどうなるか見極める必要がある。

永野会長
・関東自工の設計を持ってきたい。岩大も県大も３次元 CAD の技術者が沢山いると聞く。
・名古屋の企業を訪問した際、トヨタ系の会社が工場をつくりたいと言っていた。場所は県北でも良い。
・コンテナに空きがあるまま名古屋に戻っている。これの活用を進めて欲しい。
・岩手銀行は三菱 UFJ と協定を結んだ。三菱の持てる力を使っていきたい。

玉山社長
・岩手県でひとつのマスタープランでは足りない。広い県土を一括りというわけにはいかない。
・SWOT 分析により、強みと脅威を知ること。
・個性的なものを中心に環境づくりを行いアクションプランとする。
・地域をセグメントし、うち何か所かを集中的に検討する。北東北３県などと比較する。

（第３作業部会「岩手ブランドの国内外展開」）
谷口学長
・圧倒的なブランドはないというが、岩手県自身の問題ではないか。川井村のシソなどすばらしいものがある。
・滝沢村でおいしいスイカを作っているのに、山形の尾花沢のスイカが有名。宣伝が下手。
・小岩井農場のビスケットは三菱がバック。キリンとの合併など上手。
・もっと販売網、流通網を活用していけばよい。
・もっと宣伝すればブランドとなっていくはずだ。
・海産物が海外でも好評など、チャンスはある。

甘竹会長
・安定生産、安定供給があってはじめてブランド商品といえる。
・ブランド商品は差別化を図ることで、自分で価格を決めることができる。
・1500 店舗と契約。1 日 20 万人～30 万人の人が精肉売場を通過する。そのうち何%の人に南部鶏を買わせるかが戦略。
・焼き鳥の野菜との組み合わせで単価を下げる。
・川中、川下それぞれで、岩手県は正直すぎる。調査分析が足りないのではないか。
・産直の隆盛を見ると、今後青果市場（卸売り）が成り立っていけるか疑問。

・岩手県の産直は、生産者と川下のマッチングでブランド化している。
・市場を通してはブランド化はできない。

永野会長
・ブランドの定義は、品質向上を常に図っていくひたむきさがあるか、品質の安定性、本気で客と対峙する本気感である。
・本気でやっていくものに対して、「純情～」といったブランドをつけていくのはどうか。

元持社長
・岩手は宣伝が下手だと感じる。
・うまい宣伝方法を教えることが必要。

（第４作業部会「地域力を支える人材の育成」・第５作業部会「医療と福祉体制の整備・充実」）
達増知事
・第５部会について、県でも医療計画などを策定しているが、県民一人ひとりが医療体制のことを考え、県民総参加で医療を支えることができるようになればよいと考えている。
・例えば、救急医療を安易に使わない、かかりつけ医をもつなど、自分の健康は自分が守るといった意識が醸成できればよい。
・しかし、県立病院が救急医療を安易に使うな、とはいえない。
・県などからいわれるのではなく、県民運動的に盛り上がっていけばいい。

谷口学長
・東大総長が、最近の学生は元気がないといった。ハングリー精神がない。
・県立大学のＡＯ試験には元気な学生が多く受験する。独創性があり、ボランティア活動にも積極的だ。
・学校は、教育方針を考えて、詰め込みだけではダメ。
・今の学生たちにも、チャンスを与えれば立派な人材となっていける。
・一方、企業側の要望だけに引きずられるのもよくない。基礎研究はしっかり行っておく必要がある。

永野会長
・ドクターヘリの導入を県民の浄財を集めるなどの方法で真剣に考えてみてはどうか。
・そうした活動を通じて、機構への認識を深めてもらうことができる。

玉山社長

・健康な高齢者と仲良く暮らす街
・肴町にも介護マンションができた。
・高齢化社会を迎えるに当たって、産業界が地域にどうお手伝いしていけるか、既存の施設や商店街の連携などについて考えていきたい。
・中津川の河原でホースセラピーや介護犬を使ったドックセラピーなど行っている。
・入口の段階で元気な街づくり

（緊急アピール）
達増知事
・６月１４日の岩手・宮城内陸地震、７月の平泉の世界遺産登録延期の決定、７月２４日の沿岸地震、それぞれ直接的被害はあったが、風評被害がある。官民で、県民運動的に盛り上がりを作ってはどうか。いわて未来づくり機構としても貢献してはどうか。いわて未来づくり機構として「元気です！岩手。がんばろう！岩手」の緊急アピールをしてはどうか。

修正意見
平山館長
・緊急アピールはしたほうがいい。
・地震への見舞いに対する感謝の言葉を入れたい。
・これだと大被害がでたとも読める、行っちゃいけないとも読めるので、直してもらいたい。

永野会長
・緊急アピールに賛成。産業界としてもコンベンションの誘致などを一生懸命やっていきたい。